

第2回県民講座を開催しました

8月20日（日）に、新潟県立生涯学習推進センターを会場に、「第2回県民講座」を開催しました。

今回の県民講座では、新潟県小中学校PTA連合会・新潟市小中学校PTA連合会と「深めよう 絆 にいがた県民会議」が合同で開催し、「いじめ問題や家庭教育について考えよう」をテーマにした講演会を行いました。

工藤 ひとし 様（元新発田市立本丸中学校長、現在、新潟市生涯学習センター子育て支援講師、新発田市・村上市いじめ防止対策委員、神戸大学大学院人間発達環境学科学研究科研究員、JKYBライフスキル教育研究会会員 等）を講師に、「子どもは未来の宝物」と題した御講演をいただきました。

【御講演の主な内容】

- ・大人がじっくりと子どもの話に耳を傾けたり、子どもを褒めて勇気づけを行ったり、共感・受容する姿勢で接したり、子どもに自己決定する場を与えたりすることが、子どもの健全な自尊感情・自己肯定感を育てる。
- ・「自分が大事にされている、愛されている」と実感している子どもは、他者も大切にできる。そのような子どもは、いじめの被害者にも加害者にもなりにくい。
- ・家庭の中で、子どもを認め、信じ続け、励まし続けることが親の役目である。
- ・どの子どもにも『三つの見』（「見過ごさない・見逃さない」「見て見ぬふりをしない」「見捨てない・見放さない」）と、『三つのかけ』（「気にかける・目にかける」「声をかける」「手にかける」）を。
- ・命、人権、生き方に関わることについては、人間として絶対に許されないこととして毅然とした態度で臨むことで、子どもの規範意識を高める。
- ・他人と過去は変えられないが、自分と未来は変えられる。人生はいつでも新たにスタートできる。夢や目標は子どもに絶対に必要である。夢はたとえ叶わなくても、違う形で必ず花開くということを大人が語り、伝えていく。
- ・子どもは真心で接すれば、真心で返してくれる。素直さや明るさ、相手を認めること・信じることの大切さを教えてくれる。子どもは未来の宝物、私たちの未来を創る宝物である。

